校種：小学校　　対象学年：５年　　人権課題：公害（病気による差別）

“環境首都”水俣市に学ぼう

**１　教材について**

　　水俣病は、1956年5月1日に公式確認された公害問題である。工場排水に含まれる有機水銀が水俣湾の中で生物濃縮され、その生物を人が食したことによる有機水銀中毒事件であった。このことは多くのおとなが知っていることだが、何一つ落ち度のない水俣の人々がこの工場排水によってどのような生活に追い込まれ、どのようなたたかいを強いられていったのか、そして日本で唯一の“環境首都”となるまでにどのような取り組みがあったのかについては、正確に理解しているおとなはほとんどいないのではないだろうか。「水俣病の水俣。水俣病がうつる。」水俣のことをきちんと学習していないがゆえのこのような言葉に、水俣市民は現在も向き合わされている。

実は、この水俣病事件は、わたしたちが差別を乗り越え、みんなが幸せになるまちづくり・社会づくりをすすめていくために欠かせない非常に重要な教訓を示している。上記のような発言は、残念ながらその教訓を学ぶことができていないという表れなのである。このままでは、今後新型コロナウイルスのような未知の病気に出会ったとき、子どもたちは同じような過ちと苦しみを繰り返すことになってしまう。子どもたちの未来をそのようなものにしないためにも、この学習は子どもたちにとって価値ある学びであると捉えている。

本教材の作成にあたっては、この事件の背景が複雑、かつ長期間にわたっているため、社会科の学習として2時間、道徳科の学習として1時間という単元構成にした。教材との出会いをきっかけに、本単元の目標である3側面の内容について、子どもたちとともにつかみとっていくような学習にしていきたい。

**２　実践のポイント**

　〇３つの教材文は、学びのきっかけづくりにすぎない。教材文をもとに子どもたちの率直な疑問や感想を出し合いながら、それをもとに学びを深めていくことを大切にしたい。　　　　※ユージン・スミスさんの写真「入浴する智子と母」は使用不可となっています。

　〇水俣病事件では、何一つ落ち度のない人々が水銀中毒にさせられていった。そのような中で、幼い患者の「生きたい」という願い、「人をうらんではいけない」とわが子に言い聞かせた親、胎児性水俣病患者として生まれたわが子を「宝子（たからご）」と呼んだ親たちの深い愛情、「お金なんていらない。仕事や生きがいを補償してくれ」という胎児性水俣病患者たちの本当の姿や願いに出会わせていきたい。

　○自分のことだけを考えてしまい、真実が見えなくなると、わたしたちは正しい判断をすることができなくなり、問題は果てしなく大きく難しくなっていく。これが、水俣病事件の教訓であり、今の新型コロナウィルス差別にもつながる点である。多くの犠牲と長い時間をかけてこの問題を乗り越えようとしてきた水俣市の人々の姿と努力から、これからのわたしたちの生活に活かしていくべき教訓を子どもたちとともに見出していきたい。

**３　教科等における活用例**

**〇　社会科**

　　　全３時間のうち、はじめの２時間を社会科の公害の学習として実施する。公害の経緯、その間に起こった問題、患者の願いや生き様などを多面的・多角的につかみとることをねらいとする。

**〇　道徳科**

３時間目は、道徳の授業として実施する。価値項目は、C(17)「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」として授業を構成し、水俣市の人々の姿からこれからの教訓をつかみとることをねらいとする。

**４　実践を通して育みたい資質・能力**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識的側面 | ・水俣病事件の経緯とその後の水俣市民の取り組みについて、疑問点を出し合いながら正確に理解することができる。 |
| 価値的態度的側面 | ・水俣病を放置した国や県の姿勢、患者を差別したまわりの人々の言動の背景にある課題に気づき、その課題を乗り越えるための展望を持つことができる。 |
| 技能的側面 | ・立場の違いによって、さまざまな思いがあることを想像し、考えることができるとともに、その思いをまとめていく大切さを感じ取ることができる。 |

**【 単元計画（全３時間） 】**

**第１時　なぜ工場の排水は流され続けたのだろう（社会科）**

〈ねらい〉病気の発生から工場の排水が止まるまでの経緯を知り、なぜ工場排水が止められなかったのか、その背景を考えることができる。

**第２時****病気にされた人々は、何を求めたのだろう（社会科）**

〈ねらい〉裁判の経緯とともに、水俣病患者の姿から、そこにある本当の思いや願いを考えることができる。また、国や県・まわり市民の意識を考えることで、自分の立場しか考えないと、真実は見えなくなり問題が悪化し大きくなることをつかみとることができる。

**第３時****「環境首都」水俣市から学ぼう（道徳）**

〈ねらい〉水俣市が「環境首都」となるまでに取り組まれたことを理解し、それをもとにこれからの自分たちへの教訓を見出すことができる。

参考資料・文献

「水俣病・授業実践のために」学習材・資料編〈2016改訂版〉水俣芦北公害研究サークル

「水俣の赤い海」原田正純（1986 フレーベル館）

「よかたい先生　水俣から世界を見続けた医師―原田正純」三枝三七子（2013 学研）

「みなまたの木　改訂復刻版」三枝三七子（2018 地湧社）

「じゃなかしゃば　新しい水俣」吉井正澄（2017 藤原書房）

「証言　水俣病」栗原　彬（2000 岩波新書）

「水俣から　寄り添って語る」水俣フォーラム（2018 岩波書店）

**５　展開例**

**（1）第1時　なぜ工場の排水は流され続けたのだろう（社会科）**

**（2）本時の目標**

病気の発生から工場の排水が止まるまでの経緯を知り、なぜ工場排水が止められなかったのか、その背景を考えることができる。

**（3）展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動と主な発問（☆） | 予想される子どもの反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | **１　本単元の学習テーマをつかむ。**  　☆みなさんは、日本で1つだけ「環境首都」と認められているまちがどこか、知っていますか。 | ・知らない。  ・佐賀市？  ※佐賀市も、同じ環境首都コンテストにチャレンジしたが、残念ながら奨励賞で終わっている。  **テーマ：どのようにして水俣市は「環境首都」なったのだろう。** | ○日本で唯一「環境首都（環境を大切にするまち）」として認められているのは、熊本県の水俣市であることを伝える。どのようにして水俣市が「環境首都」と認められるようになったのかを知りたいという意欲を高める。 |
| 考える | **２　教材Ⅰ「美しかった海が汚された～病気の発生から排水が止まるまで～」と出会い、病気の発生の経緯を知る。**  ☆まず、水俣市とは、どのようなまちだったのかを調べていきましょう。 | ・アセトアルデヒド？  ・塩化ビニールって？  ・有機水銀？  ・なぜ毒（有機水銀）が流されたの？  ・海がすごくきれい。  ・工場が来てから発展してきたんだね。 | ○教材Ⅰは、パワーポイント資料を使って教師が提示する。児童には、教材Ⅰのプリントを配付しておく。  ○教材Ⅰを提示した後、わからなかったところ、疑問に思ったところに線を引かせ、そのことについて教師が補足説明をする。 |
| ☆この工場が排水を止めた（毒を流すのをやめた）のは、いつ（何年）だと思いますか。 | ・1960年？  ・それじゃあ遅い。1958年？  ・今も流されている。 | ○実際に排水が止まったのは、トヨ子ちゃんがなくなって12年後の1968年であることを知らせる。 |
| **☆なぜ、工場が排水を止めるまでに、こんなに長い時間がかかったのだろう。**（その間にも、病気になる人は増え続けたのに。） | ・工場が自分たちの責任を認めたくなかったから。  ・国が止めなかったから。  ・工場やまちがつぶれてしまうことを心配したから。  ・国全体が経済を発展させて国を豊かにしよう | ○教材文をもとに、その理由をグループで考えさせる。  ○その後、グループの意見を全体で交流しあう。その中で、工場・国・水俣市民の視点から、それぞれの思いや考えがあったことに気づかせる。  ○高度経済成長期だった国の状況や当時の環境問題に対する |
|  |  | としていたから、少しく  らいの犠牲はしょうがいないと思ったから。  ・環境は少しくらい汚しても、すぐに元に戻るだろうと考えたから。 | 意識などについても、児童と話し合いながら掘り下げていく。 |
|  |
| まとめる | **３　患者の思いを考え、その後の経緯に関心を持つ。**  ☆15年（トヨ子ちゃんの死からは12年）もの間、毒は流され続け、病気になって死んでいく人もどんどん増えました。病気になった人や家族はどのような思いだっただろう。 | ・どうしてすぐに止めないの。  ・どうして自分たちのまちがいをすぐになおそうとしないの。  ・許せない。  ・誰も助けてくれない。誰も信用できない。  ・引っ越ししたい。 | ○15年もの間、放置された患者の気持ちについて話し合う。その気持ちは次の時間に学習することを伝えておく。  ○年表①に関わって、1959年の年末に「今後、工場の責任は問わない」という約束のもとに、ほんのわずかな見舞金が工場から渡され、患者たちものをいえなくされていったことを補足する。（教師用資料①） |
| ふり返る | **４　本時の学習の感想を書き、次時の学習への課題意識をもつ。**  ☆では、今日の学習の感想と、病気の原因が分かってその後どうなると思うか、ワークシートに書いてみてください。 |  | ○ワークシートに感想を書かせ、児童の理解度を確認する。また、今後の予想も考えさせ、次時の学習への関心を高める。 |

**（4）第2時　病気にされた人々は、何を求めたのだろう（社会科）**

**（5）本時の目標**

裁判の経緯とともに、水俣病患者の姿から、そこにある本当の思いや願いを考えることができる。また、国や県・まわり市民の意識を考えることで、自分の立場しか考えないと、真実は見えなくなり問題が悪化し大きくなることをつかみとることができる。

**（6）展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動と主な発問（☆） | 予想される子どもの反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | **１　前時の学習をふりかえり、本時の学習のテーマを確認する。**  　☆前の時間に、水俣市で工場排水によって水俣病という公害が起こり、工場の排水が止まるまで、どうして15年もかかってしまったのかを考えましたね。今日は、何を考えていくのでしたか。 | ・工場の排水が原因だと分かって、病気にされた患者さんたちや水俣市の人たち、国はどうしたのかを調べていく。 | ○前時の学習内容をふりかえり前時の児童の感想も紹介しながら、本時の学習テーマについて確認する。 |
| **２　資料①～④から、患者たちの苦しみや思いを知る。**  　☆病気になった患者さんたちは、どのような思いをしていたのか、資料①～④まであるので、どれからでもいいので読んでみよう。資料を読んだら、感想をワークシートに書いておきましょう。 | 資料①  ・小学校に行きたかっただろうな。  ・家族は悔しかったと思う。  資料②  ・友子さんは家族に愛されていたんだな。  ・友子さんもいっしょにたたかったんだな。  資料③  ・「人をうらむな」と言ったお父さんは強い人だと思う。  ・いじめた人たちも生きたかったのだろうな。  資料④  ・しのぶさんはいろんなことにチャレンジしたんだな。  ・そうやって病気とたたかったんだな。 | ◆資料①「しゃくらん　しゃくと　がっこうに　いくと」  ◆資料②「たから子」  ◆資料③「のさり」  ◆資料④「こんにちは、胎児性水俣病のしのぶです」  ○子どもたちから感想を引き出しながら、患者の怒りや悲しみ、家族としての愛情、人間としての誇りを感じ取らせていきたい。 |
| 考える | **３　教材Ⅱ「じぶんのあやまちを認めて欲しい～裁判でのたたかい～」と出会い、裁判によるたたかいについて知る。**  　☆病気の原因がわかって、患者さんたちがどんなたたかいをしていったのかをみてみよう。  　☆患者さんたちのたたかいを聞いて、どう思いましたか。  **☆裁判にどうしてこんなに時間がかかってしまったのだろう。** | ・すぐに謝らなかった工場がひどい。  ・せっかく裁判で勝ったのに、病気を認めないなんてひどすぎる。  ・国はどうして50年以上もまちがいを認めなかったの？  ・自分のせいじゃない（国のせい、工場のせい）と責任をなすりつけあった。  ・命よりお金を優先した。  ・お金を払いたくなかった。 | ○病気にされた人たちは、裁判というたたかいをはじめていくことを知らせ、三審制について補足をしておく。  ○教材Ⅱをパワーポイント資料を使って教師が提示する。児童には、教材Ⅱのプリントを配付しておく。  ○教材Ⅱをみて感じたことを、率直に出し合わせる。  ○なぜ裁判にこんなに時間がかかったのかを子どもたちに考えさせ、思いついたことをワークシートに記入させる。  ○全員の意見を出し合い、グルーピングして共有する。最終的に、「自分たちの都合や立場を優先して、事実や問題と正面から向き合おうとしなかったこと」が原因であることに気づかせたい。 |
| まとめる | **４　公害を防ぐためにわたしたちが学ぶべきことをまとめる。**  ☆同じような公害を起こさないために大切なことは何だろう。 | ・自分の都合ではなく、起こっていることや問題としっかり向き合うこと。  ・自分の過ちは素直に認め、すぐに改めること。 | ○工場や国が犯したあやまちは、わたしたちもしてしまう可能性があることに気づかせ、うわさやあいまいな情報にとらわれず、事実と向き合うこと、まちがいはできるだけ早く認め、改めることの大切さに気づかせたい。 |
| ふり返る | **５**　**本時の学習の感想を書き、次時の学習への課題意識をもつ。**）  ☆今日の学習で自分が思ったこと、感じたことを書きましょう。早く書けた人は、この水俣市がどうやって“環境首都”になったのか、予想してみましょう。 |  | ○本時の感想を書かせるとともに、現在水俣市が“環境首都”」と呼ばれるまでになっていることを思い出させ、次時への関心を高める。 |

**（7）第3時　“環境首都”水俣市から学ぼう（道徳）**

**（8）本時の目標**

水俣市が“環境首都”となるまでに取り組まれたことを理解し、それをもとにこれからの自分たちへの教訓を見出すことができる。

**（9）展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動と主な発問（☆） | 予想される子どもの反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | **１　前時の学習をふりかえり、本時の学習のテーマを確認する。**  　☆今日は、工場の排水による病気で苦しんだ水俣市が、どのようにして“環境首都”になったのか、その秘密を探っていきましょう。 |  | ○前時の学習内容をふりかえり前時の児童の感想も紹介しながら、本時の学習テーマについて確認する。 |
| 考える | **２　教材Ⅲ「もやい直し～“環境首都”水俣市はどのようにして生まれたのか～」と出会い、その後の水俣市の歩みについて考える。**  ☆水俣市が環境首都になれたのはどうしてだと思いますか。このことに関係のありそうなところに線を引いてみましょう。  ☆みんなで線を引いたところをヒントにして、水俣市が環境首都になったわけを考えてみよう。 | ・埋め立て工事が始まりました。  ・（市長が）謝罪しました。  ・“もやい直し”をすすめました。  ・みんなで国にお願いに行きました。  ・生きがいを感じられるような居場所づくり  ・きちんと学ぶことができるようなしくみ  ・環境を大切にする街として人のつながりをとりもどしていこう  ・「環境首都」と認められたのです。  ・まちがったことを言う人がいます。  ・きちんと謝ったから。  ・みんなで話し合ったから  ・みんなで協力したから。  ・みんなの願いを形にしたから。  ・みんなの目標を決めたから。  ・みんながきちんと知ることが大事だから。 | ○教材Ⅲは、パワーポイント資料を使って教師が提示する。児童には、教材Ⅲのプリントを配付しておく。  ○教材Ⅲの文章に線を引かせる。  ○自分が線を引いた部分を発表し合い、共有する。  ○みんなで線を引いたところをもとに、その理由を考えさせ、ワークシートに記入させる。  ○子どもにその理由を発表させ、それ以外の子どもたちからもそのほかの理由を考えて発表させる。それを教師がシンプルな言葉として板書していく。 |
| まとめる | **３　水俣市の人々の姿から、これからの自分たちの生活に活かすことができるものを考える。**  ☆この中で、これからの自分の生活にも生かしたいと思うものはどれですか。選んでみましょう。 | ・きちんと謝る。  ・みんなで話し合う。  ・みんなで協力する。  ・みんなの願いを形にする。  ・みんなの目標を決める。  ・みんなで協力して、チャレンジする。  ・正しく知る。調べる。 | ○“環境首都”水俣市をつくった市民の人々の行動から、自分たちのこれからの教訓とできるものを、子どもたちに選ばせる。選んだものが違っていてもかまわない。だからこそ、どれも大切なポイントであることを共有したい。 |
| ふり返る | **４**　**全３時間の人権学習をふり返り、感想を書く。**  ☆今日の学習で自分が思ったこと、感じたことを書きましょう。早く書けた人は、この水俣市がどうやって“環境首都”になったのか、予想してみましょう。 |  | ○子どもたちの感想は、事後に学級の中で共有するとともに、学級通信などに掲載し、学習の成果を積極的に保護者にも発信していきたい。 |